

## 1 どういう性格・パーソナリティか

型	性格の側面	弱	普通	強	指数
思索型	内閉性 : 社交意識が低い	■■■■■			35
	客観性 : 思考的思慮深い		■■■■■		59
活動型	身体性 : 機敏な・気軽な		■■■■■		58
	気分性 : 感情のまま行動		■■■■■		42
努力型	持続性 : 几帳面・忍耐力		■■■■■		59
	規則性 : 常識的・順法的		■■■■■		48
積極型	競争性 : 勝気な・積極的		■■■■■		50
	自尊心 : 気ぐらいが高い		■■■■■		61
自制型	慎重性 : 見通しをつける		■■■■■		47
	弱気さ : 取越苦勞・遠慮	■■■■■			30

■この人の中心性格は「積極・自尊心」および「思索・客観性」であるが、「努力・持続性」や「活動・身体性」といった側面も本人は意識している。

### ●「積極・自尊心」及び「思索・客観性」の人のパーソナリティスケッチ

人とは協調しながら、うまくやっていきたいと思っているが、内側では周囲の自分に対する評価を気にしていて、実力を認めてもらいたいという気持ちが強い。また、感情に左右されたり、冷静になれるときとが交互に起こったりもする。やや独善的であるといえ、自分自身に浸っているような感じを受ける。しかし、思い付いたら結果はどうあれ即行動という軽薄さはなく、時間をかけてもじっくりと自分なりに検討しようとする。ゆえに、自分で確実な自信を持って実行するために、検討がはずれてしまうと一人よがりになってしまふことがある。そして、本質としては、物事を客観的な視点からとらえようとする傾向があり、判断の仕方は的確であることが多い。発想も定型的なものばかりではなく、ときに突拍子もないような意見をいって周囲を驚かせることもある。ただ、人間関係において常に一步距離をおいて接するため、深く付き合っていない人からは、親しみにくい印象にとられる。しかし、内面性は非常に豊かで自分自身を深く内省している。

### ●もう一方の性格特性

精神的には安定していて、不安症・劣等感といった神経症とは現在は縁がない。表面的にもオドオドしたり、イライラした感じは見られず、行動や発言にはしかるべき自分なりの理由をもって。暗い影のようなものがなく、明るい。

## 2 どういう関心事・興味領域を持っているか

興味の方向性	弱	普通	強	指数
日常周辺事型	■■■■■			26
客観・科学型		■■■■■		60
社会・経済型		■■■■■		50
心理・情緒型		■■■■■		43
審美・芸術型		■■■■■		66

俗世間的な事に興味がない。しきたりなどは気にしない。  
物事を分析的に考える、又はそのまま事実のみ捕らえる。  
芸術的関心が高く、世界を美的観点でとらえようとする。

## 信頼係数



回答の信頼性は高く、矛盾したところがほとんどなく、信頼のできる診断結果である。

## 3 基礎的な職場場面での社会性

診断項目	弱	普通	強	指数
積極性		■■■■■		66
協調性		■■■■■		52
責任感		■■■■■		55
自己信頼性		■■■■■		67
指導性		■■■■■		53
共感性		■■■■■		50
感情安定性		■■■■■		61
従順性		■■■■■		39
自主性		■■■■■		54
モラトリアム傾向	■■■■■			33

率先して業務に取り組み、意見や考えを進んで提案する。

任された仕事や役割を理解し、意見に責任を持っている。  
自信があるため、大きな目的をクリアすることもある。

比較的気持ちが安定していて、多少の事では動揺しない。

強く命令されたり注意されると、相手に対し反感をもつ。

自己の決断において、自発的に仕事をすることができる。

今の環境や生活、生き方などに自信をもち安定している。

## 4 どういうことに意欲・ヤル気をだすか

意欲の側面	弱	普通	強	指数
達成 欲求		■■■■■		52
親和 欲求		■■■■■		44
求知 欲求		■■■■■		50
顕示 欲求		■■■■■		60
秩序 欲求		■■■■■		50
物質的欲望		■■■■■		43
危機 耐性		■■■■■		68
自律 欲求		■■■■■		52
支配 欲求		■■■■■		41
勤勞 意欲		■■■■■		57

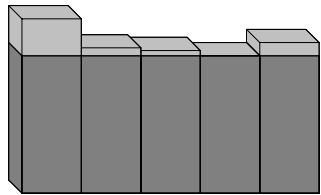
環境の中で実力を発揮し、それを皆に認めてもらいたい。

全面的な自我崩落にならない、危機対応力を備えている。

仕事をしていくことで、自己実現をはかろうとしている。

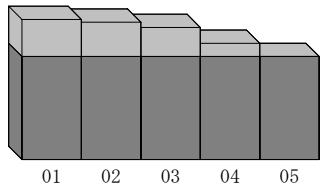
■この人は「苦勞を乗り越え、成長したい」系統の欲求群が一番強く、ついで「自分らしい生活を送りたい」系統の欲求群となっている。逆に「対人関係が気になる」系統の欲求群には淡泊な反応である。

【仕事に立ち向かう姿勢】



- 0 1 : 積極性
- 0 2 : 責任感
- 0 3 : 自主性
- 0 4 : 達成意欲
- 0 5 : 勤労意欲

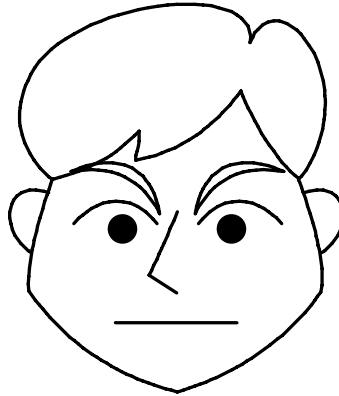
【組織だって仕事を進める能力】



- 0 1 : 指導性
- 0 2 : 協調性
- 0 3 : 共感性
- 0 4 : 親和性
- 0 5 : 従順性

【心理要素イメージ】

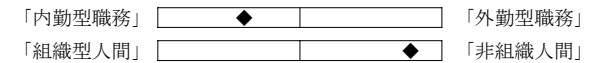
眉の太さ：指導性      眉の傾き：従順性  
 瞳の直径：達成欲求      目の傾き：達成欲求+求知欲求  
 鼻の高さ：顕示欲求      口の形状：親和欲求+協調性  
 顔の輪郭：性格類型  
 逆三角顔 = 思索型      丸顔 = 活動型  
 エラ顔 = 積極型      角顔 = 努力型  
 細長顔 = 自制型



【判定結果A】予測推定値（見所）

(1) 一般的職場状況での可能性	■	47
(2) 海外など精神力の必要な職務	■	55
(3) 足腰のよさが武器になる職務	■	50
(4) 集中力、緻密さの必要な職務	■	57
(5) 標準化された仕事や工場労働	■	49

【判定結果B】当人の傾向



【判定結果C】大まかな職業興味領域とその方向性

- (1) 「最適」 研究的、探索的な仕事や活動の領域
- (2) 「適切」 音楽、創作、文芸など芸術的な仕事や活動
- (3) 「適切」 企画、組織の運営、経営管理のような仕事
- (4) 「適度」 営業など対人的接触をとまう仕事
- (5) 「小適」 物を対象とする、具体的で実際的な仕事
- (6) 「小適」 規則や慣習に従った行動、事務的な仕事

【判定結果D】配置適性 1

《適性の高い順》

- (1) 「最適」 基礎研究者
- (2) 「最適」 基礎研究管理者
- (3) 「最適」 研究管理者
- (4) 「最適」 研究開発者
- (5) 「適切」 営業管理者
- (6) 「適切」 営業専任者

《低い順》

- (1) 「小適」 管 轄 専 任 者
- (2) 「適度」 人 事 専 任 者
- (3) 「適切」 人 事 管 理 者
- (4) 「適切」 企 画 専 任 者
- (5) 「適切」 経 理 専 任 者

【判定結果E】配置適性 2

- (1) 「最適」 研究開発
- (2) 「最適」 基礎研究
- (3) 「最適」 経営企画
- (4) 「最適」 新規事業開発
- (5) 「適切」 調査分析
- (6) 「適切」 商品企画・開発

- (1) 「努力」 倉 庫
- (2) 「努力」 購 買
- (3) 「小適」 受注窓口
- (4) 「小適」 物 流
- (5) 「小適」 教育研修

